

第50号

令和5年6月1日発行



さくら

大阪狭山市 民生委員 協議会
児童委員

会長・辻 八重子 編集・広報部会
大阪狭山市今熊1丁目85
社会福祉法人 大阪狭山市社会福祉協議会内
電話 072(367)1761

おかげさまで創刊50号



ひとり暮らしや寝たきり高齢者を訪問します

大阪狭山市高齢介護グループと協力し「ひとり暮らし・寝たきり高齢者台帳」作成のために、各担当地区の民生委員・児童委員が対象世帯を訪問します。この調査は体調の急変や災害などの緊急時に備えるためのものです。調査内容につきましては厳重に保管し緊急時以外には使用いたしませんので、どうぞ安心して台帳登録にご協力ください。



新任研修会を行いました

新任・2期目の方が対象でしたが、3期目以降の方も多く参加しました。民生委員・児童委員は、地域の身近な相談相手です。さまざまな相談ごとに対応するため、私たちは福祉に関する制度など知識の修得に努めており、特に新任の研修に力を入れています。お困りごとがありましたら、地区担当の民生委員・児童委員にご相談ください。



この機関紙は、みなさまからいただいた共同募金の配分金の一部が当てられています。

わたしたち民生委員・児童委員は身近な相談員です

東 地区



山本	恒昭	杉本多香子
山本	欽也	森田 和子
溝端	明子	中辻 猛司
伊東	靖子	

西池 地区



時本	茂	清水	薫子
中岡	資裕	讃岐	先子
田中	朋子	星野	裕子
坂根	敏恵		

狭山 地区



川添	毅	中田真理子
柏村	康輔	宇田知恵子
南出	高治	藪内ひとみ
浦井	猛	木村 文昭

半田 地区



宮崎	洋子	藪内	光子
宮崎	仁孝	大屋	芳信
松川	元英	富永	啓子
宮崎	純一	馬場	昇
岡	和正		

茱萸木 地区



中井	利幸	関戸佐登美
川村	法子	酢谷 朋子
谷	雅子	吉村 起男

民生委員・児童委員のことを紹介しています

民生委員・児童委員の
魅力発信ページ

YouTube



西 地区



中嶋 拓雄	面井 忠好	小林 利彦
山口 渡	北井 守	田中由美子
谷 佳代子	佐野 貴徳	市井瀬十代士
安光 正美	川崎 綾子	
橋本 葉子	近藤 一雄	

南第一 地区



寺内美恵子	朽木久美子	早野 秀夫
光成 裕子	川田千恵子	都築 正男
丸山 記子	後藤アヤ子	
上塚 直子	伊藤 千絵	

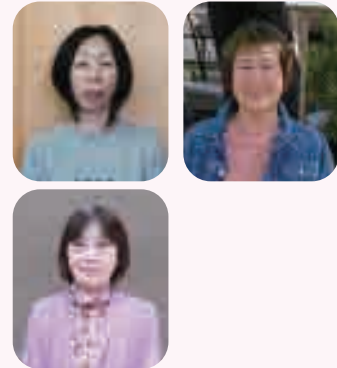
南第二 地区



谷口 恭子	野間佳代子	今瀧 裕俊
樋口 眞慈	徳山 優子	疋田 正信
小崎 福廣	辻村 隆史	面尾 博行
夏目 幸子	露木 美奈	吉田 満

南第三 地区

惠良 伸子
加太志保子
岡本 京子
中上 智彦
藏立須美代
関本オリエ



主任児童委員



瀬尾しほり	横山まゆみ
上田 則子	前東 久美
辻 八重子	中畠 裕子
長尾 淳子	

民生委員・児童委員は地域福祉をサポートする身近な相談相手です。主任児童委員は児童福祉に関する事項を専門的に担当いたします。

こんなことをしています

- ・ひとり暮らし高齢者の訪問、見守り活動
- ・介護の相談
- ・子育ての支援
- ・障がいをお持ちの方の支援
- ・行政サービスの説明
- ・関係機関への連絡



※ゴミ出し・買い物・電球の交換・病院への送迎等是有償ボランティアや各種サービスを紹介しています。

(注)今回写真撮影することができなかった方もいます。

『コミュニティ・スクール』知っていますか？

南第一小学校で地域学校協働活動推進員（以下：推進員）の田中晶子さんとお話する機会を作っていただきました。

コミュニティ・スクールとは、学校と地域住民が力を合わせて、地域一体となって特色ある学校づくりを進めるための仕組みです。昨年度までに、西小学校、南第一小学校、北小学校がコミュニティ・スクールを導入しており、今年度から南第二小学校と第七小学校が導入予定です。



南第一小学校1年生の「昔あそび」の様子



幅広い地域住民等の参画のもと、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が連携・協働して行う活動を地域学校協働活動と言います。これまでの活動として、地域の方が授業に入ってミシンの指導や水泳の見守りをしたり、子どもたちが地域の公園やお店に出かけた際に、地域の方が自分たちの住むまちのことを教えたりしています。民生委員・児童委員も南第一小学校1年生「昔あそび」の授業をお手伝いしました。

現在は、地域の皆さんに学校の現状をどのように知ってもらうかが課題となっているようです。

今後、子どもたちが地域課題に地域の一員として取り組めるよう、地域と学校との情報共有が必要だと考えているそうです。

課題はありますが、推進員の活躍で地域と学校がどんどんつながっていると感じました。子どもたちの学びや成長を支えるだけでなく、地域の皆さんにも人とのつながりを感じてもらい、大阪狭山市を好きになってもらえるのではないのでしょうか。

最後に「We Love OSAKASAYAMA」という言葉を田中さんが私たちに投げかけてくれました。子どもたちが、進学や就職で大阪狭山市を離れたとしても、また大阪狭山市に帰ってきたいと思えるようなまちづくりをしていきたいと感じました。

※昨年広報誌にもコミュニティ・スクールや地域学校活動について記事が載っています。是非ご覧ください。



右2番目：南一小推進員の田中晶子さん
右3番目：西小推進員の山本勅伸さん



編集後記



「さくら」は創刊して本号で50号となりました。また編集委員も大幅に入れ替わっての出発ですので、心機一転して紙面構成も縦組みから横組みに変更しました。

「創刊号から49号まで揃えたい」という一言に多くの方が動いてくださったおかげで、たくさんの方の「さくら」を集めることができました。今までの取り組みを振り返り、私たち民生委員・児童委員の活動はいろいろな方に助けてい

ただき成り立っているとしみじみ感じました。ご協力ありがとうございました。

4面では「コミュニティ・スクール」を取り上げました。児童委員でもある私たちがどう関わっていくかが課題であり、今回の対談をきっかけに地域学校協働活動推進員の方々と協力し「地域とともにある学校」にしていきたいと思えます (な)